

イギリス政府観光局が出した 「日本人の取扱い説明書」のなかなかよくできた観察

◆夏休みはいかがお過ごしになりましたか？

九月になりました。今年の夏休みはいかがお過ごしになりましたでしょうか。留学生の皆さんの中には、「長期休暇」であるからアルバイトを頑張った方も、また国に帰って家族との団欒のひと時を過ごした方もいらっしゃるでしょう。日本でできた友達と、日本国内を旅行した方もいるかもしれません。先生方はいかがでしょうか。先生方は夏休みだからといって、学生のようにすべて学校が休みになってしまうわけではありませんが、しかし、それでも普段できないことをやったり、あるいは旅行をしてさまざまなお出かけに行ったりと、自分なりの夏休みを過ごした方も少なくないのではないのでしょうか。

今年の夏は天気が不安定であり、中国四国地方では集中豪雨で多大な被害があったり、また台風の直撃があり、そして猛暑であったりと天気のことでも話題になったことが少なくありませんでした。留学生の方の中には、そのような被災地に行ってボランティアを試みたり、あるいは身近な地域の被害などで復旧や復興に力を貸したり、中には、そのようなところでアルバイトをしていて、強制的に普段とは違う仕事をさせられたというようなこともあったかもしれません。なかなかできない体験ですから、そのようなことを「させられた」という感覚ではなく、普段ならばできない経験ができたという前向きに考えてもらいたいと思います。

留学生の皆さんにとっては、日本の夏を体験するのは初めて、または二回目かもしれません。しかし、その夏の中で、さまざまな思い出を作っていたらよかったですと思います。もちろん、良い思い出ばかりではなかったかもしれません。失敗したり、恥ずかしい思いをしたりということも少なくなかったかもしれません。しかし、そのようなこともすべて今までとは違う思い出となって、学校では学べない自分の経験として留学生の皆さんの心の中に刻み込まれることと思います。その一人ひとりの体験こそ、本当の意味での日本での「交流」ではないかと思います。そのような交流の中で、日本人の言葉や、日本の文化に親しんでもらい、普段の生活では気付けない気づきがあったり、あるいは日本国内において、皆さんが通っている学校の地域ではないところの文化に親しんでみるということも良いことではないのでしょうか。

さまざまな思い出ができるということは、もう一つには、新たな出会いがあるという

ことになります。特にボランティアなどで活動された方はなおさらですが、その中にはさまざまな日本人との新たな出会いがあったと思います。日本のことわざで「袖触れ合うも他生の縁」という言葉があります。日本の文化の中には「生まれ変わる」とか、「今の世の中でなくても黄泉の国で生活している」というような考え方があります。ボランティアで会っただけの人、その時の行き帰りの電車の中で隣に座っただけの人でも、その黄泉の国や前世などでは、深い縁があったことかもしれないということです。それだけ、多くの人がいる中で触れ合うということは、非常に縁があり大事にしなければならないということです。

夏休みに皆さんが体験した思い出と出会い、大事にしていきたいと思います。

◆ “日本人のトリセツ、をまとめたイギリス政府観光庁

さて、皆さんが出会った日本人はどのような人でしたでしょうか。もちろん、学校の先生とは異なる質の方も少なくありません。日本人は古くから、多くの土地を渡り歩いたり、旅をしたりということをおもひにない民俗でありました。日本人はそれだけ農業などで日々を過ごし、村の中で満足に暮らすことができる人々であったのだと思います。今でもおじいさんやおばあさんの世代に話を聞いてみると、あまり遠くに旅行することを欲することが少ない民族性を持っているように思います。また、「自分の郷を大事にする」というような習慣から「MOTTAINAI」というような世界に誇れる文化が生まれてきますし、また、農業を中心にした社会を形成していたことから、独自の稲作文化や、お祭りの文化を持っています。外から来る人を貴重な人と思って「神様と同じよう習慣で接遇する」ということが「OMOTENASHI」という、日本の文化につながるのではないのでしょうか。

さて、イギリス政府観光庁が、日本人をイギリスに迎える時のマーケティング資料として「日本人観光客の接遇方法」という項目を作り、実に 71 ページにも及ぶ解説書を作成しています。日本人の習慣と比較し、日本人がさまざまなことに関してどのように感じるかということの研究した資料であり、日本人がどのように見られているかということが書かれている資料になります。少々面白いし、日本人が気付かない内容も少なくないので、その内容を少し見てみましょう。

「日本では人前で鼻をかむのは失礼」

これに関しては、私も当然にそのように思いますが、実は外国においてはあまり気にしない国もあるということです。戦国時代にヨーロッパを訪問した伊達政宗の家臣、支倉常長が当地で大量の懐紙を持ち、鼻をかむたびに懐紙を使っていたことに「何と云うぜいたくな国であろうか」ということで、その紙を残してある国があるそうです。日本のように木が多く、紙が日常的に使えた国とそうではない国の文化、また他人の前で鼻

をかむとか、音を立てるということを失礼と思い、相手の気を悪くさせることがその後人間関係を悪化させ、損になるというような文化は、当時は理解されなかったのかもしれない。現在でもイギリスでは鼻をすするのはNGですが、他人の前で鼻をかむのは問題がないとされているので、この辺は大きな文化の違いになります。

「日本人は食事の時にお茶を飲む習慣がある」

内容としては「日本人は食事時に（緑）茶を、夏はコールドで冬はホットで飲む。水に置き換えられることもある」としています。食事の時は「緑茶」で、それ以外の時は「麦茶」というように注意書きが書いてあるのです。まあ、そうでないところもあるし、水が出てくるという声もありますが、確かに「お茶」が出てくる時に「麦茶」が出てくる料理屋さんは少ないですね。留学生の皆さんの中にも、「お茶が無料で出てくる」ということに驚く人もいたり、あるいは、母国でそう聞いたりしていても、本当にお茶が無料で出てくることに感動する人もいるでしょう。一方で、日本人が外国に行った際、「お茶も出てこない」などといって立腹する人も少なくないのです。

これはイギリスの観光庁がまとめたものなので、お茶に関しては「日本人がイギリスにおいてお茶を飲むのは、アフタヌーンティーの習慣を味わう観光の一つとして受け取っているので、そこを重視して日本人の観光客を迎えましょう」ということまで書いてあります。このほかにも「日本人はイギリスといえば、スコッチ・ウイスキーと思っている」などということが書いてあり、「ただ『ウイスキー』と日本人から注文を受けた時はスコッチを出しましょう」などということも書いてあります。

このように「日本人の観光客を見て、さまざまなことを感じている」ということが書いてあります。しっかりと研究しているものから、実際は少し違うと思うものがありますが、日本人が普段そこまで意識していないことが研究されてることに少し驚きを感じます。

◆「日常」のつもりが「異文化」

さて、夏休みの話からイギリス観光庁の話になってしまいました。留学生の皆さんを考えた時に、我々日本人は、「日本人との違い」ということを感じる人がいます。しかし、イギリス政府観光庁のサイトでわかるように、日本人が何気なく行っていることや不快に思うことなどが、イギリス人から見れば奇異に見えたり、あるいは観光の材料として役立っているということになるのです。

実際に、「日常」「生活習慣」というのは、その国の宗教観や気候、文化、食事などさまざまなことからでき上がってきています。また、長い歴史の中では王様の趣味に多くの人が憧れ、その憧れが文化として定着したような例も少なくないのです。有名なエジプトのピラミッドは、当時の王様のお墓ですが、日本でも古墳があって似たような文化

があったこと、そして石でできているピラミッドと、山のようになっている古墳とで砂漠の文化と山や木を中心にした日本の文化の違いが形を変えて残っているのではないのでしょうか。

このように、同じことを表現するのも、文化や気候風土などからその表現方法が異なり、そして、そのことが日常や生活習慣の違いになって表れることは少なくないのです。

留学生の皆さんは、このことを最も大きく感じるはずですが、毎日母国で行っていたことが、日本人では奇異に見られてしまったり、おかしいと思われる。日本語学校では、日本人だけではなく、他の国の人々もいますので、さまざまな違いがさまざまに出てくることになります。まさに「日常」が「異文化」としてとらえられてしまうということになるのです。

本来は「違い」を受け入れてもらうことが重要になるし、また日本人も多くの人々が「違う文化と共存することの重要性」を学ばなければなりません。違うことを奇異に思うのではなく、違うことを楽しむ余裕がなければいけないのではないのでしょうか。

「各国のトリセツ」を、イギリス政府観光庁のように作ってそれを周辺の街や日本の人々に送ればよいのかもしれませんが、日本でも日本以外の国でも、「世代間の違い」もありますから、なかなかうまく作ることができないのかもしれませんが。しかし、日本語学校に関係している人々は、日本語学校として他の文化を受け入れ、そして学校の周辺の人々にもその点で理解を求めなければならないのかもしれませんが。同時に、留学生には夏休みなどに学校以外の多くの日本人と触れ合ってもらい、そして、日本の文化や異文化に対してどのような考え方を持っているか、どのようにして自分たちを理解してもらうかということも、独自に感じてもらいたいと思うのです。

その意味で、「夏休みの体験」をなるべく重視して、今後の日本文化の学習に役立てていただきたいと思います。